

収蔵資料
調査報告書

10

幕末の銅版画

2008. 3

宇治市歴史資料館

収蔵資料 調査報告書

10

幕末の銅版画

宇治市歴史資料館では、昭和59年（1984）の開館以来、関係資料の収集に努めて参りました。当初は閑散としていた収蔵庫も、今では多種多量の資料で一杯です。

当館では、宇治をはじめとする京都関係の画像資料の収集に努めています。今回は、その中においておおきな柱のひとつともなっている銅版画をとりあげます。

当館の資料収集事業に対しまして、より一層のご協力をたまわりますよう、お願い申し上げます。

平成20年3月

宇治市歴史資料館

目次

1 館蔵銅版画の概要	2
2 銅版画目録 幕末編	10
3 銅版画画像集	27

1 館蔵銅版画の概要

■京都を題材とした銅版画

当館に所蔵する幕末期銅版画441点のうち、半数以上が京都の名所や社寺を題材としたものである（下表参照）。当時すでに京は全国からの旅人がおとずれる、わが国最大の名所の集積地であった。

No638の表紙に見られる「書絵 銅版所」「大要店」が位置する「清水三年坂下」は、当時も今も、京都を訪れる人びとで最もにぎわう一帯である。ちなみに「大要」とは「大文字屋要助」（553-04ほか）の略。また、No606には、伊勢の国は津の易継なる人物が元治元年（1864）の秋に京都で求めて帰ったものとみずからしるす。幕末期の京都にあって、この種の銅版画が当地を訪れた人びとの土産品として珍重されたことがうかがえる。

京都以外では、その周辺に位置する畿内とその周辺がある程度数がまとまっている。その他の地域では江戸が突出しているほか、これらの都市を訪れた旅人たちが行き交った街道筋を題材とするものも少なからず見受けられる。

江戸時代の旅人達の最大の目的は伊勢参宮であったが、彼らのかなりの部分が奈良や大坂を経て京を目指した。伊勢からは二、三日の距離である。なかには、引き続き西国三十三所観音を巡礼したり、讃岐の金毘羅や安芸の厳島に足を伸ばす人びとも。江戸は当時最大の都市として題材にことかかないほか、東国から伊勢や京を訪れる人びとにとっては最初に見る大都会でもあった。訪れた名所旧跡、何日もかけて歩いた道筋や、泊まった宿場の掲載された銅版画は、格好の思い出の品となったことであろう。

館蔵銅版画 地域別分類

地域など	点数	タイトル数	地域など	点数	タイトル数
京都府	227	137	大阪府	16	8
京都市（広域）	18	15	兵庫県	1	1
上京区	11	6	奈良県	10	4
中京区	1	1	和歌山県	3	2
下京区	14	9	広島県	2	1
伏見区	6	4	福岡県	1	1
東山区	102	60	三重県	5	3
左京区	25	15	愛知県	1	1
北区	4	3	神奈川県	2	2
右京区	28	14	東京都	39	23
西京区	8	2	宮城県	4	3
宮津市	6	4	広域	8	5
長岡京市	1	1	街道・旅	20	12
八幡市	2	2	全国	27	20
宇治市	2	2	その他	61	44
滋賀県	10	7	表紙	3	3
			合 計	441	278

*地名は、現行のものを使用した。

